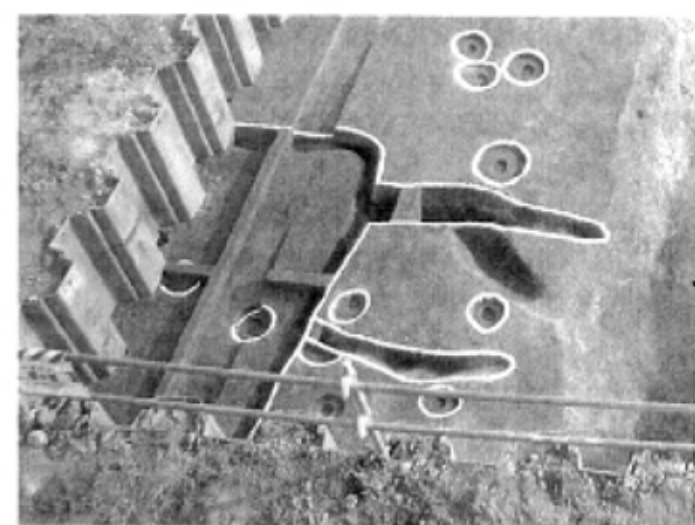




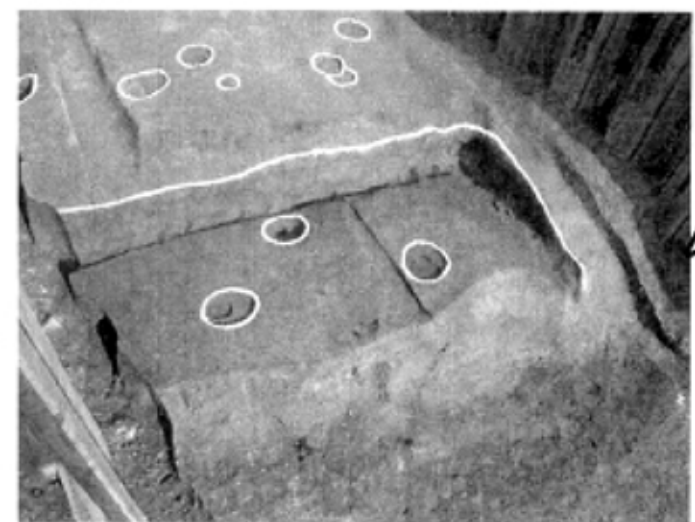
竪穴建物3（古墳時代中期）

竪穴建物3の内部では、かまどがみつかりました。土師器も出土しています。



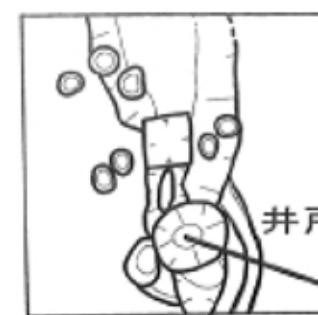
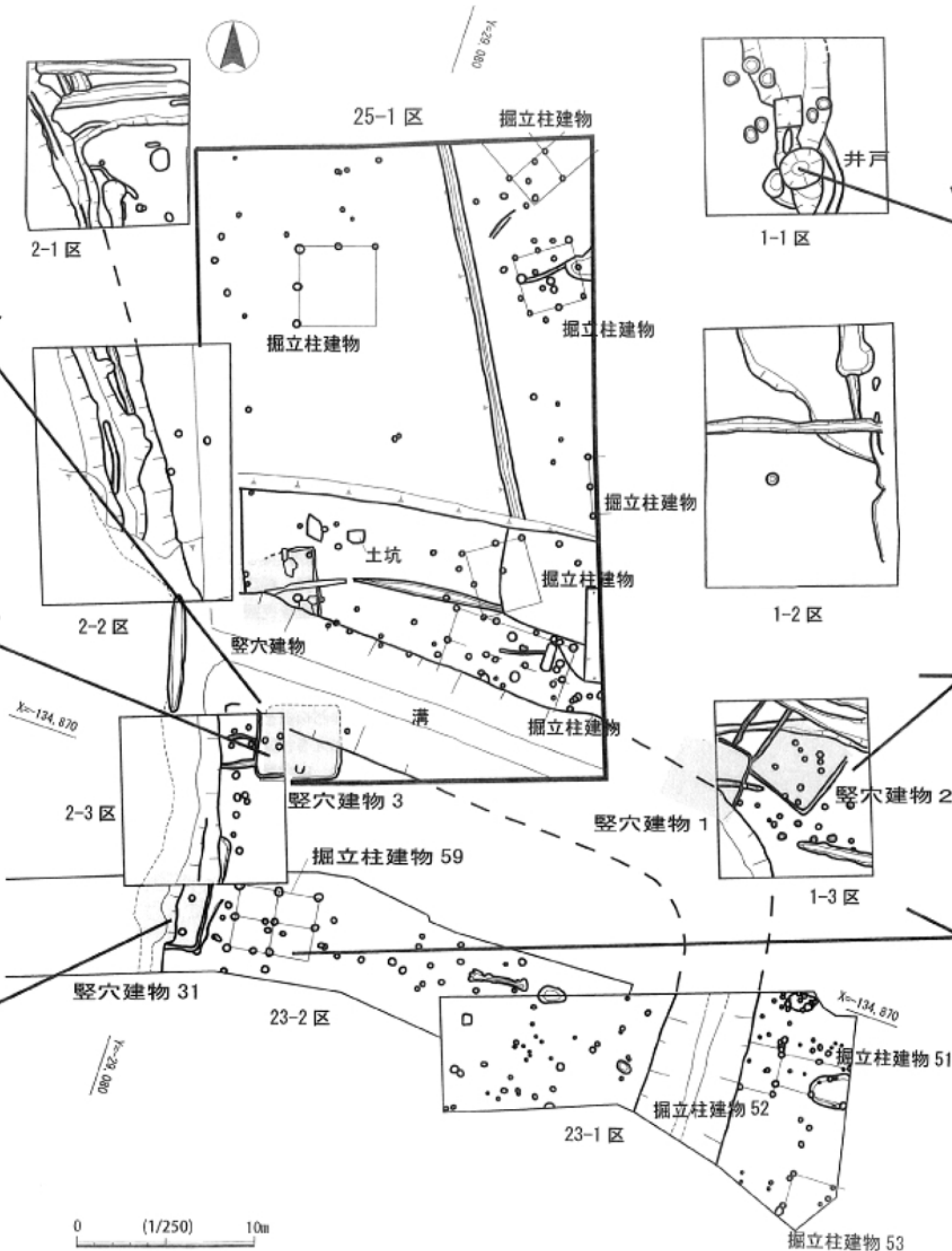
竪穴建物3（古墳時代中期）

竪穴建物3の南西部分は、昨年調査しました。建物の南西隅から、地形の低い部分に向かって、溝がのびています。

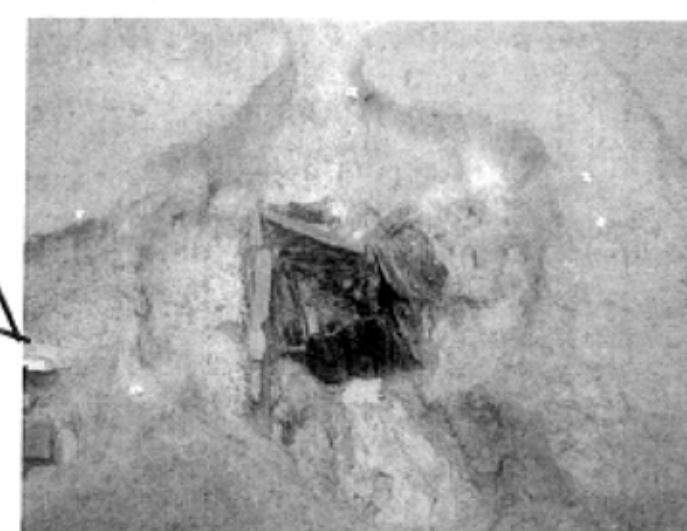


竪穴建物31（古墳時代中期）

壁際に溝が掘られています。

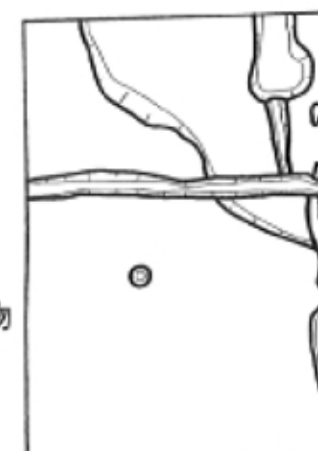


1-1 区

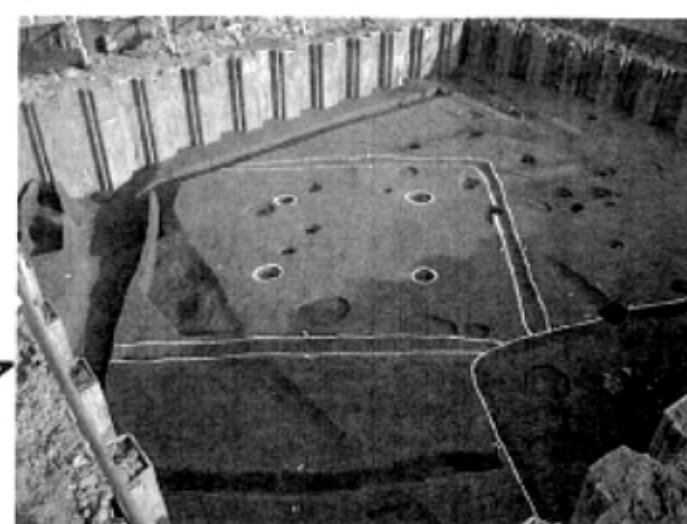


井戸（古墳時代中期）

板材を方形にならべて、井戸枠にしています。板材のなかには、扉として使っていたものをリサイクルしているものもあります。

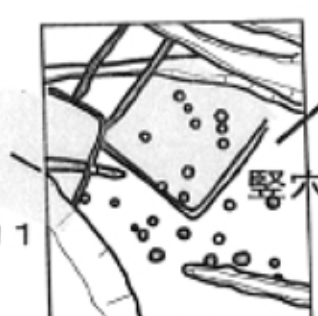


1-2 区



竪穴建物1・2（古墳時代中期）

内部にある4つの穴は、上屋を支えていた柱穴です。



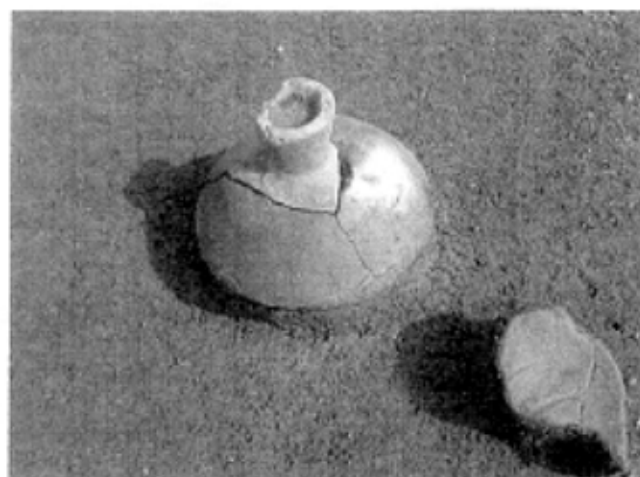
1-3 区



掘立柱建物59

穴を掘って、柱を建てていました。

～古墳時代の道具たち～



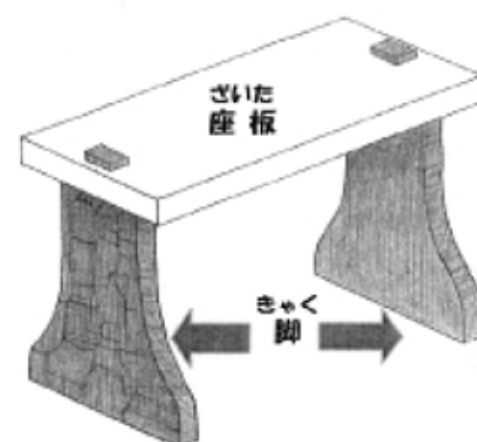
土師器（はじき）高杯（たかつき）
さかさまの状態で出土しました



須恵器（すえき）壺（つぼ）
把手（とって）がついています



木製品 椅子の脚



須恵器 甕（かめ）
いろいろなサイズのものがありますが、これは特大です！

私部南遺跡（その3）

きさべみなみいせき

私部南遺跡は、交野市私部南・向井田にあります。第二京阪道路の建設に先立ち、2004年より、大阪府文化財センターが発掘調査をしています。

私部南遺跡でこれまでに出土した最も古いものは、縄紋土器です。小さな破片なのですが、これは、今から約4000年前に、人々がこの周辺で活動していたというあかしです。

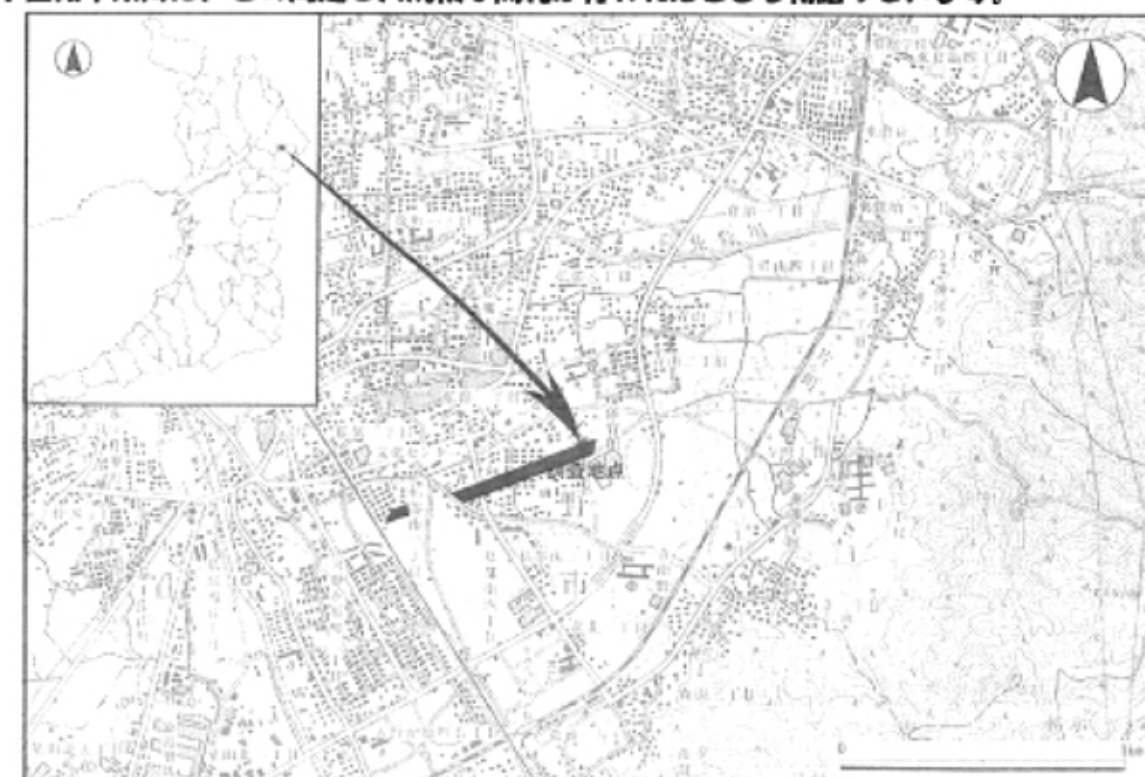
私部南に人々が暮らし始めるのは、今から約2500年前の弥生時代前期です。これまでの調査で、住居としていたと思われる竪穴（たてあな）建物や、溝などがみつかっています。ただし、建物の数は少なく、たくさんの人が住んでいたわけではなさそうです。

古墳時代（今から約1600年前）になると私部南にムラができました。竪穴建物や掘立柱（ほったてばしら）建物、井戸、溝などがいくつもみつかっています。竪穴建物には、内部に、ご飯を炊くためのかまどが設置されているものもあります。また、土器や鉄製品、木製品などの道具類も出土しています。

ムラは、飛鳥時代・奈良時代（今から1200～1400年前）ごろまで続いたようです。この時代の掘立柱建物などもみつかっています。

その後、鎌倉時代（今から700～800年前）になると、周辺一帯が開拓されていきます。地形の高低差を克服し、田んぼがつくられました。遺跡の一部では、同じ時代の掘立柱建物や井戸などがみつかり、ムラも営まれていたようです。これは、今も私部南遺跡周辺で見られる、田んぼと集落からなる景観のルーツといえるものです。

今回は、古墳時代の竪穴建物、中近世以降の大溝などをみていただきます。竪穴建物の内部では、かまどのあとがみつかっています。鉾（こう）さいとよばれる、鉄かすも出土し、周辺で鉄製品をきたえる作業をしていたことがわかりました。また、幅約6.5メートル、深さ約2.4メートルの大溝は、中世後半以降に、この周辺で大規模な開発が行われたことを物語っています。

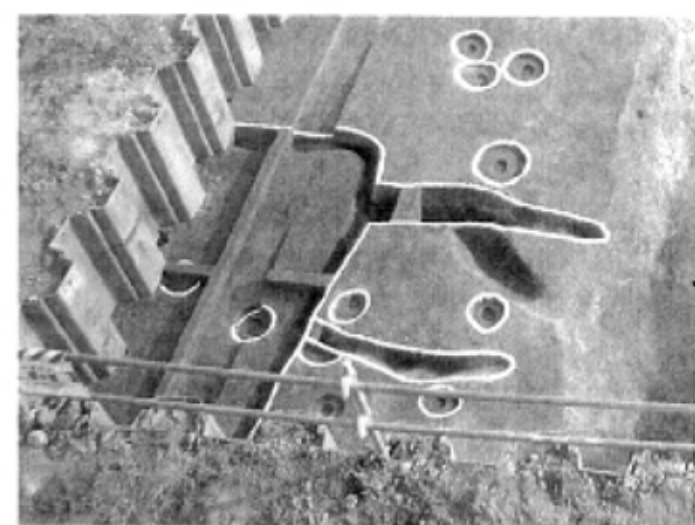


私部南遺跡（今回の調査地）



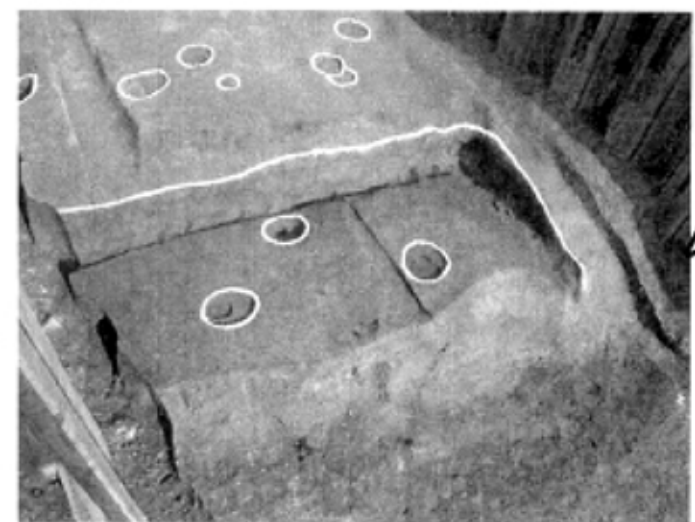
竪穴建物3（古墳時代中期）

竪穴建物3の内部では、かまどがみつかりました。土師器も出土しています。



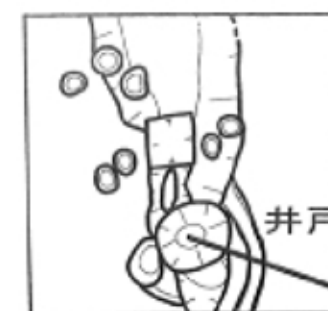
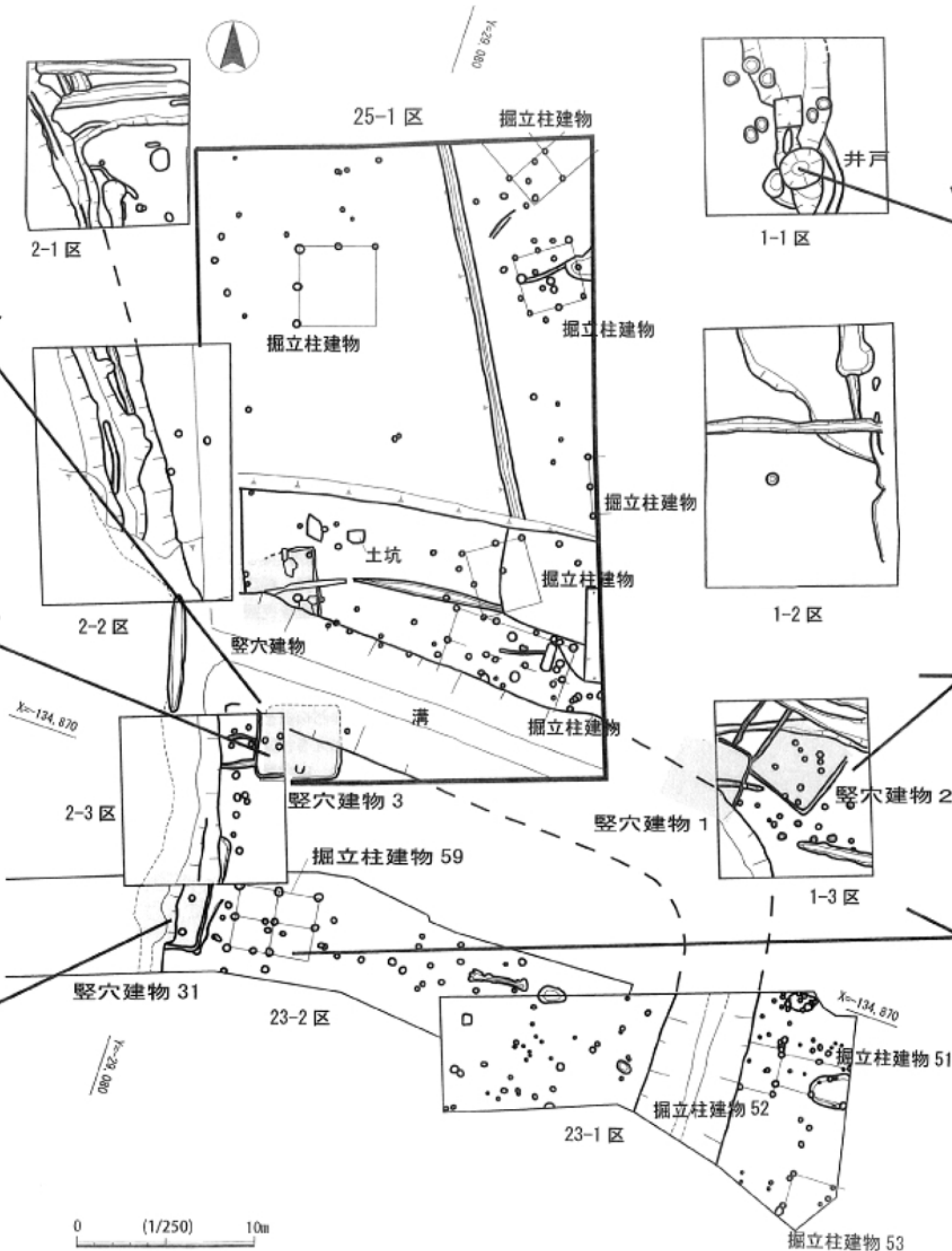
竪穴建物3（古墳時代中期）

竪穴建物3の南西部分は、昨年調査しました。建物の南西隅から、地形の低い部分に向かって、溝がのびています。

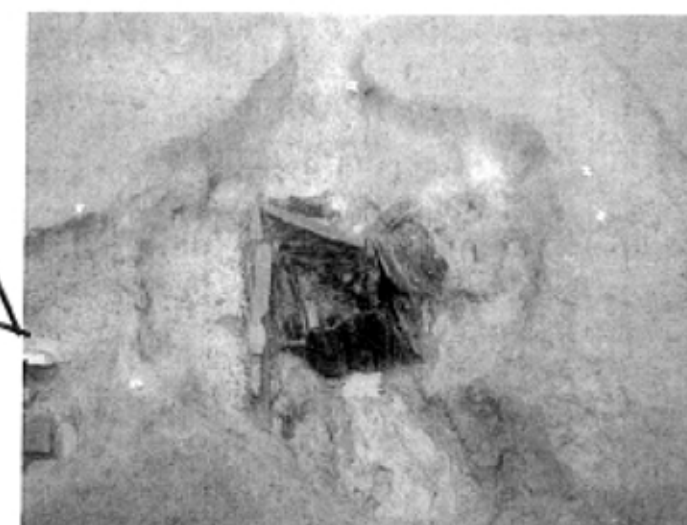


竪穴建物31（古墳時代中期）

壁際に溝が掘られています。

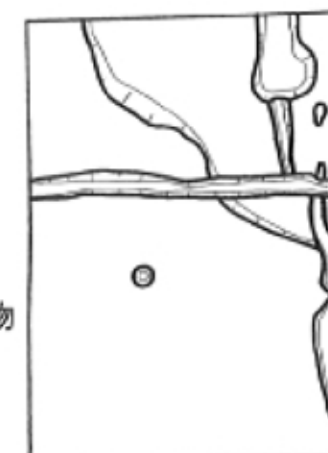


1-1 区

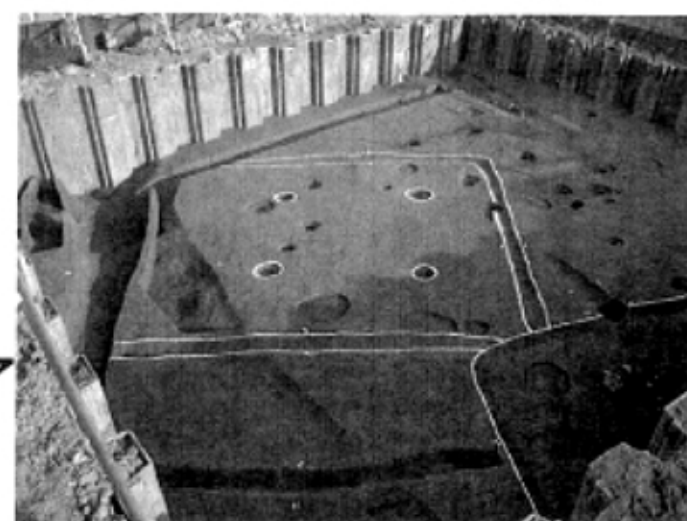


井戸（古墳時代中期）

板材を方形にならべて、井戸枠にしています。板材のなかには、扉として使っていたものをリサイクルしているものもあります。

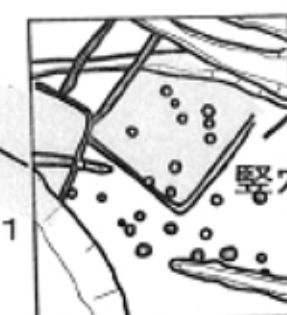


1-2 区



竪穴建物1・2（古墳時代中期）

内部にある4つの穴は、上屋を支えていた柱穴です。



1-3 区



掘立柱建物59

穴を掘って、柱を建てていました。